

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成31年4月25日(2019.4.25)

【公開番号】特開2017-164121(P2017-164121A)

【公開日】平成29年9月21日(2017.9.21)

【年通号数】公開・登録公報2017-036

【出願番号】特願2016-50629(P2016-50629)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】平成31年3月12日(2019.3.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

所定の制御条件の成立に基づいて遊技者に有利な特別遊技状態に制御する遊技機において、

所定の画像を表示可能な表示画面を有し、当該表示画面よりも後方の領域を前方から視認可能な画像表示手段と、

前記表示画面よりも後方に配されていて、後方を視認可能にする第1状態と、後方を視認不可能又は前記第1状態よりも視認困難にする第2状態とに切替可能な透過性切替手段と、

前記表示画面よりも前方に配されていて、前記表示画面に対して前後方向に重ならない又は一部が前後方向に重なる前側待機位置と、前記前側待機位置よりも前記表示画面に対して前後方向に重なる部分が多い前側動作位置とに移動可能な前側可動部材と、

遊技の進行に伴う演出を制御可能な演出制御手段と、を備え、

前記演出制御手段は、

前記前側可動部材が前記前側動作位置にあるときに、前記透過性切替手段を前記第1状態に制御していることで、当該前側可動部材と前記透過性切替手段よりも後方の視認対象部との関連ある組合せを視認可能な前後組合せ透過演出を実行可能なものであることを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

しかしながら、可動部材を用いた演出にはまだ改善の余地があった。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】**【0007】**

本発明は、上記の課題を解決するために次のような手段をとる。

【手続補正4】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0008****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0008】**

本発明に係る遊技機は、

所定の制御条件の成立に基づいて遊技者に有利な特別遊技状態に制御する遊技機において、

所定の画像を表示可能な表示画面を有し、当該表示画面よりも後方の領域を前方から視認可能な画像表示手段と、

前記表示画面よりも後方に配されていて、後方を視認可能にする第1状態と、後方を視認不可能又は前記第1状態よりも視認困難にする第2状態とに切替可能な透過性切替手段と、

前記表示画面よりも前方に配されていて、前記表示画面に対して前後方向に重ならない又は一部が前後方向に重なる前側待機位置と、前記前側待機位置よりも前記表示画面に対して前後方向に重なる部分が多い前側動作位置とに移動可能な前側可動部材と、

遊技の進行に伴う演出を制御可能な演出制御手段と、を備え、

前記演出制御手段は、

前記前側可動部材が前記前側動作位置にあるときに、前記透過性切替手段を前記第1状態に制御していることで、当該前側可動部材と前記透過性切替手段よりも後方の視認対象部との関連ある組合せを視認可能な前後組合せ透過演出を実行可能なものであることを特徴とする遊技機である。

【手続補正5】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0009****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0009】**

この構成の遊技機によれば、前後組合せ透過演出により、表示画面よりも前方にある前側可動部材を見せると共に、表示画面よりも後方にある視認対象部を見せて、前側可動部材と視認対象部との関連ある組合せを視認可能である。これにより、表示画面の前後に異なる2種類の部分によって、関連ある組合せが見えるという斬新な印象を与えることが可能であり、遊技興味を高めることが可能である。